信大・医短・紀要
Vol 22, 1996

養護老人ホームにおける入所者間の援助行動に関する研究

清水妙子[1)]，三上れつ[2)]

A study on the helping behaviors among elderly nursing home resident

The purpose of this study was to clarify the helping behavior among elderly nursing home residents. The subjects were eighteen old persons ranged in age from sixty-eight to ninety. They responded to a semi-structured interview. All responded were coded and categorized.
The results were as follows:

1. The helping behavior were classified into seven categories; care, promotion of self-care, teaching, control, safeguard, sympathy, respect.
2. The reason and motivation for helping behavior were classified into four categories; belief, approbation, affection, role. These actions are the result of high -level-needs in Maslow's theory.

From these results, it appeared that it is possible to consider not only the care receiver but also the care giver of old persons in the nursing home care.

Key Words:
Elderly nursing home（老人ホーム），Among residents,（入所者間），Helping behavior（援助行動），Reason of helping behavior（援助行動の理由）

はじめに

現在，我が国では21世紀の高齢社会に向けて，老人医療・福祉の充実が図られてきているが，それに伴い高齢者の生活の質の問題が重要な検討課題となってきている[1)]．

一般に高齢者は，職業や役割からの引退により生活範囲や交流の場が縮小化し，生きる目的や生きがいを喪失しやすい状況にあるといわれている[2)]．特に種々の理由によって施設入所を余儀なくされている高齢者については，スタッフによって強化される依存性，長期入所によるアイデンティティの喪失，役割喪失による無関心，引きこもり，孤独，意欲低下，退行などがあるというネガティブな側面が多く報告されている[3,4)]．しかし，入所

1）信州大学医療技術短期大学部看護学科；SHIMIZU Taeko, Dept. of Nursing, School of Allied Medical Sciences, Shinshu Univ.
2）山形大学医学部看護学科；MIKAMI Retsu, Dept. of Nursing Faculty of Medicine, Yamagata Univ.

者を観察していると，長い生活経験に基づく知恵や信念などを生かし他者と交流し，いきいきと生活している高齢者も少なくない．これまでの研究では，入所者のポジティブな側面に関する報告は少ないが，ハッチソンは，「施設内であっても入所者間で援助行動を行うことは，入所者のアイデンティティ，価値観，個性の維持に影響を及ぼし，生活の質を高めることにつながっている」[5]ことを指摘している．

他者を思いやって，助け合うという行動は，人間にとって普遍的な現象であり，援助者自身にも達成感，充実感が生まれ，人間的成長が助長されるというケアリングの中核を担っている[6]．すなわち，高齢者が集団生活や地域社会において，他者との交流を通じ助け合い，新たな役割を得ることは老後の生活の充実につながっていく可能性が大きい．

そこで本研究では，養護老人ホームにおいて，入所している高齢者間にどのような援助行動が行われているか，またその理由・意義は何かを明らかにし，生活の質とのつながりについて検討した．

研究方法

1．調査対象

1）調査対象の選定条件

1996年7月23日現在，N県S養護老人ホームに入所している高齢者のうち，次の基準にあった者．

①65歳以上，②ほとんどの日常生活が自立している，③認知能力に問題がない，④聴力や会話能力に問題がない，⑤6か月以上入所している，⑥今後無制限に入所が予測される，⑦本研究の主旨を理解し承諾している．

2）調査対象の選定

調査協力が得られたホームの入所者リストから，園長と生活指導員の助言を得て，対象者を選定した．入所者105名の中から選定された人数は，精神薄弱や精神疾患（44名），聴力・会話障害（7名），病気・静養室入室（6名），一時入所（4名）を除く44名で，その内，調査に協力が得られた21名中，面接で援助行動に言及している18名を分析対象にした．

2．調査方法

1）データ収集方法

調査開始にあたり，基礎資料として，園長と生活指導員から，対象者の年齢，性別，入所年数について情報収集した上で，1日間のホームでの参加観察の後，面会室および集会室で30～60分の個人的面接調査を行った．面接での質問は，研究者間で作成した半構成的質問紙を用いた．質問項目は，対象者の背景（兄弟，以前の自分の職業，身体状況，趣味，宗教など），対象者が行っている援助行動，援助行動を行う理由・意義で構成した．質問の表現は一律ではなく，会話の流れや対象者の理解の程度によって言い替えを行った．面接の内容は，対象者の了承を得て録音し，逐語的記録データを作成した．また，面接場面での対象者の表情やしぐさ，施設内で目にした言動や生活の様子も観察データとしてノートに記述した．

2）倫理的配慮

面接に先立ち生活指導員に，選定された対象者に対して本研究の意図と方法について大まかな説明を依頼し，あらかじめ対象者の承諾を得るようにした．また，面接によるデー

表1　対象の背景

No	年齢	性別	兄弟	職業	入所年数	身体状況	趣味	宗教
1	89	♀	3 4	そばやの出前・旅館業	5	OK	歌・詩吟・園芸・舞踊・ゲートボール	仏教
2	77	♀	1 6	行商・旅館	4	腱鞘炎・鞭打ち後	手芸	
3	83	♀	3 8	飲み屋	10	腰痛		
4	90	♀	1 6	和裁	18	心臓・胃潰瘍	茶・生花	
5	68	♀	2 5	紡績・旅館	4	OK		
6	91	♀	1 7	家事手伝い	8	OK		
7	84	♀	4 4	瓦屋	8	OK	園芸・ペットの世話	
8	87	♀	1	家庭科の教師	12	OK	読書・聖書購読	キリスト教
9	82	♀	3 4	農家	6	OK	歌・裁縫・俳句	
10	83	♀	4 7	看護婦	3	骨折後歩行不自由	書道・俳句	
11	82	♂	2 4	呉服屋	5	OK	ゲートボール	
12	75	♀	1 2	和・洋裁	7ケ月	難聴	生花・手芸	
13	87	♀	3 4	飲食業	9	腰痛	踊り	
14	76	♀	4 8	会社員・和裁	7	腰痛・足の痛み	歌・詩吟・園芸・舞踊	
15	83	♂	1	営林署	13	右半身麻痺	陶芸	
16	68	♀	3 5	紡績・料理屋	6ケ月	腰痛		
17	90	♂	5 7	理容	12	OK	ゲートボール・歌・茶	
18	76	♀	6 6	紡績	10	OK		

兄弟：（例）3／4は4人兄弟中の3番目を意味する

タ収集時に，再度研究の主旨と方法について説明し，対象者の承諾を再確認した．さらに，対象者の権利の擁護に関する事項について，用意した文書を読んで保証するように努めた．具体的には，対象者のプライバシー保護（秘密を厳守すること，データは本研究以外に使用しないこと，ホーム関係者には個人的情報は洩らさないこと）と，苦痛に感じることや話したくないことは答える必要がないことを説明した．

3．調査期間

1996年7月24日（参加観察），7月25～27日（面接）．

4．分析方法

研究者間で，逐語的記録および観察記録のデータの内容分析を行い，援助行動および援助行動を行う理由・意義と思われる部分を全て抽出した上で，コード化，カテゴリー化した．

5．用語の操作的定義

援助行動：愛他心に根ざした行動で自発的に他者を助ける行動．

ケアリング：個人あるいは集団を援助したり，支援したり，あるいは能力を与えることをめざす行為．

結　果

1．対象者の背景

調査対象者の背景は表1に示すとおりで，女性15名，男性3名であった．年齢は68歳から91歳までで，60代2名，70代4名，80代9名，90代3名で，平均は81.7歳であった．入所年数は6か月から18年の範囲で，5年未満5名，5年～10年未満7名，10年以上6名であった．兄弟数は，1～8人で，4人以上が15名みられた．以前の自分の職業では，ほとんどの者が何らかの職業に従事していた．身体状況については，疾病あるいは腰痛などの持病のある者が9名みられた．趣味では13名の者が何らかの趣味を持っていたが，無い者も5名みられた．特定の宗教を信仰している者は2名であった．

表2　入所者間の援助行動

カテゴリー	コード	内　　容
世話	食事	食事の準備，盛り付け，後片付け，湯を汲む，食事時の面倒を見る
	排泄	尿・便の失敗の後始末，トイレの水を流す
	移動	戸の開閉，目の不自由な人の手を引き誘導する
	洗濯	洗濯をしてあげる，洗濯物をかけやすくする
	身繕い	更衣，身繕いの手伝い，片麻痺の人の腕時計をはめてやる
	掃除	部屋，トイレ，流しの掃除
	整頓	片付けを手伝う，ものを拾ってあげる，高いところへの収納
	買い物	頼まれたものの買い物，買い物に付き添う，荷物を持つ
	病気時	ご飯を部屋まで運ぶ，一口でも合うように食事を準備，食事介助
	その他	ヤクルトの配達
自立の促進	声かけ	身だしなみが整えられるよう声かけをする
	教える	知的障害者が自分で洗濯できるように教える
	整える	洗濯物がかけられるようにする
教示	知恵	おかずは栄養になるから食べた方がいい，排泄の失敗の後始末の仕方を説明する
	注意	甘い物，しょっぱい物，タバコなど摂取してはならない人へ注意を促す 冷蔵庫がないので作った物はすぐ食べるように言う，生活のルールが守れない場合注意する
	適応	入所間もない人に生活の仕方を教える，混乱していたりチグハグなことをしている場合方向づける，知的障害者に洗濯物のたたみ方を教える
調整	対処	人とのトラブル回避，人の悪口を言わない，けんかをしない
	仲裁	周囲が争いで混乱しているときある程度距離を置いて制止する
	方向づけ	正確な判断を促す，調整をして混乱のないようにする
保護	声かけ	なにかにつけて言葉をかける
	見守る	身体の弱い人を暖かく見守り優しい言葉をかける
	ねぎらい	大変ねと声をかける
	同情	だらしない様子や排泄の失敗を見ると自分のことのようにせつない
共感	贈り物	自分の栽培した花をあげる
	理解	これまでの人生のことを話し合う
尊重	認める	仲間として認める，特別の存在として認める，一所懸命やっていることをほめる，精神的に支える
	許し	知的障害者は解らないのだから解る者がやればいい，我慢しあう，しょうがないとあきらめる，わからないことを言っても話を傾聴する
	配慮	洗濯物がかけられるようにする，その人が傷つかないように言う，相手が負担にならないようにする，相手のペースを守る，細かいことを強制したり注意したりしない

2．援助行動

高齢者が施設内で行っている援助行動は「世話」「自立の促進」「教示」「調整」「保護」「共感」「尊重」の7つのカテゴリーに分類することができた．カテゴリー名，コード名，内容は表2のとおりである．

1）世話

「世話」のカテゴリーは，食事時の面倒をみる，湯を汲んでやるなどの食事の世話，

尿・便の失敗の後始末をする，トイレの水を流すなどの排泄の世話，目の不自由な人の手を引き誘導する等の移動の世話の他に，洗濯，身繕い，掃除，整頓，買い物，病気時の世話など，日常生活における身の回りの世話に関するものであった．

事例16

「90いくつのお婆さんが私の横にいるわね（食堂で）．今朝もね，“おばあちゃん，今朝のおみおつけ，うんと美味しいのよ，えんどうが入っているし，全部飲もうね”って言って私が飲ましてやるの．後片付けもみんな私がやってあげる」

事例1

「痴呆症の人もいるでしょ，おしっこや便をたらしたりするので，だれか踏んづけたら困るからね，自分の懐に紙があればそれで拭いたり，トイレに行けば紙はあるので，それで拭いたりします」

事例10

「ちょっと重心がとれなくてヨロヨロっとすればすぐ手をかけたりしてますよ」

事例9

「重い物を持ってやるとか，高い所へ物を上げてやるとか，そんな事で困ってりゃ“どれっ”て言ってちょこっとやったりします」

2）自立の促進

「自立の促進」のカテゴリーは，身だしなみを整えられるように声をかける，障害のある人が洗濯ができるように教える，自分で洗濯物がかけられるように環境を整えてやるなど，他者の自己ケアを促進するものであった．

事例7

「ズロースのゴム紐が長くなったら，ちょっと買ってきて直すとか，だれでもしますでしょ．（同室の人は）全然しないんですもの．この間も，うんと変な話ですけどね，あの人腰が曲がっているものですから，ずっーとズロースの方まで見えちゃうんですの“あのねSさん，他の部屋なら言わないけれど10年も一緒にいれば親子のようなものだから．悪いけど前かがみになると，おしっこの方まで見えてしまうのでゴム紐買ってきて入れ替えたらどう？”と言うんです」

事例9

「（知恵遅れの同室者が部屋替えになった）別れてもちゃんと出来るようにね，全部は出来なくてもパンツと靴下とハンカチだけは自分で洗えるように教えて，“洗いなさいよ”って言ってやったんです」

3）教示

「教示」のカテゴリーは，栄養のことや排泄の失敗の後始末の仕方を経験に基づいて説明するなどの自分の知恵を教えているもの，食べ物について話し病気の予防法や生活の仕方について注意しているもの，入所間もない人に生活の仕方を教え相手が適応できるように促しているものなどであった．

（1）知恵

事例6

「隣の方（食堂で）がおかずを食べないので“これ栄養があるからご飯よりこれを先におあがりなさい”って教えてやったんです」

（2）注意

事例1

「ここはね，栄養士さんがついて，塩分も何もね，バランス良く調整してくれて，こんなありがてえもの食べなければ身体壊れるよって，私はそんなふうに話しているんです」

（3）適応

事例6

「当番でお掃除するでしょ．流しを2人でしたんです．2日間あるもので大概一人づつやるんですけ

どね，（相手の人が）入所したばかりで慣れないもんで一緒にやってあげたんです」

4）調整

「調整」のカテゴリーは，人とのトラブルを避けるようにしている，人の悪口を言わないなどの対処，周囲が争いで混乱しているときの仲裁，正確な判断が出来ないときの方向づけなど，共同生活を円滑にしていくものであった．

（1）対処

事例3

「どっちか我慢してりゃ喧嘩にならないからね」

事例1

「ここではね，何言われても腹たてない．自分が怒られたり，世話焼かれたりするでしょ，怒られたら，“ああ，申し訳なかった私がここんとこでしゃばったな”とこういうふうに思うから，腹立てないんですよ．“ああ，余計なことしちゃったな，これから気をつけよう”と思えばね．絶対何言われても腹立てたことない」

（2）仲裁

事例8

「こういう共同生活ですからね，ルールがあるんですが，それが守れない人が出てくるから，あっちでこうだ，こっちでこうやったとなるんです．そんな時に必要ならば口出します」

（3）方向づけ

事例8

「1日続きで流しと便所の当番が来るんです．今，隣のお部屋は1人なんですよ，そうすると私どもの部屋の者と3人で2日間するんですが，1人多いんでいつもの手順が狂っちゃうんです．そんな時は“今日はあなたはやらなくてもいいわよ”とか“今日は流しの当番をもう一回やってくださいね”とか言うんです」

5）保護

「保護」のカテゴリーは，何かにつけて言葉をかける，体の弱い人を温かく見守る，優しい言葉をかけるなどの相手をねぎらうもの，身繕いをしてやる，排泄の失敗の後片付けをするなど，相手の苦痛や悲しみに同情しているものであった．

（1）声かけ・見守る

事例12

「体の弱い人には，温かい目で，いつも何かあったときは助けたり，優しい言葉で話したり，きついことは言わないようにしています．自分も足が悪いからあんまり積極的にできないけど言葉をかけることや見ていることはできますから」

（2）ねぎらい

事例6

「長くいらっしゃる方は，私に“あの人はこういう訳だから，気が強いから気をつけなさい”とか“大変だね”って言ってくれます」

（3）同情

事例7

「おしっこがこんな所（廊下）にこぼれていれば拭いてあげたい，だって気持ち悪いだろうと思うんですよ．今人が見たらみっともない，早く助けてあげたいと思っちゃうんです」

6）共感

「共感」のカテゴリーは，自分が栽培した花を花の好きな人にあげる，これまでの人生を語り理解し合うなどであった．

（1）贈り物

事例7

「お花が好きな人には，自分のつくった花（この時はパンジー，ユリ，ギガンジュウムなど）をあげます」

（2）理解

事例9

「クラブへ皆やって来るでしょ，皆で昔の事を思い出して，農家の人だったら農家の話しをするとか，青年時代はどうだったとか，学校の話だとかいろいろね，皆いきいきしてくるんですよね，あれやっぱしなつかしいんですよね」

7）尊重

「尊重」のカテゴリーは，お茶に誘ったり訪問したりして仲間として認める，特別の存在として，一所懸命やっていることを認めるなど相手の存在自体を認めること，知的障害者は便をたらしていてもその意味が解からないのだから，相手を攻めるのではなく，解かっている者がやればいいという許しにあたるもの，相手が洗濯物がかけられるようにしてやる，相手のペースを崩さない，その人が傷つかないような言い方をするなど配慮にあたるものであった．

（1）認める

事例6

「Aさん，これ（A氏自作の花瓶）Uさんからもらったけど Aさんの名前が入っているからお返しするねって言ったら，いいよ，いいよ，Sさんなら使ってもらっていいから，名前消して使ってくださいと言われたもんで，今使っています」

事例17

「Nさん（右半身麻痺の同室者）は，食堂に行くときもみんな自分でやるで，感心している．布団の上げ降ろしも，効く方の手でみんな自分でやりますよ，ありゃーなかなか大したもんだ，ちゃんとたたんで自分で入れちゃう．手伝うようなことはあまりないねぇー」　（それを聞きながらNさんはテレ笑いをしている）

（2）許し

事例1

「痴呆症の人もいるでしょ，おしっこや便をこぼしたりするわね，皆大騒ぎしてみているんです．そういうのはね誰だって，俺だって（この年齢の人は女性でも自分のことを俺という）解かるくらいならたらさないって言うの，ね，解からないんだから．解かる者が拭けばいい」

（3）配慮

事例7

「みいちゃんて言うんですが，目も見えないし，耳も聞こえない方だから与えられた竿にみいちゃんが（洗濯物を）かけられるようにしたいと私は思うの，他の人がね，ずうっーとかけてしまうんですの，だからマーちゃん，みいちゃんがかけられないんじゃないかしらと何時も言いますの」

事例8

「午前中は10時くらいまでお洗濯をして，それから後は，私なんか新聞を読んだり自分の好きなことをしてますけど，2人1部屋でしょ，相手の人も居ますから相手のペースを崩さないように気をつけることが，自分のペースも守れることなんです」

3．援助行動を行う理由・意義

援助行動を行う理由・意義は「信念」「承認」「愛情」「役割」の4つのカテゴリーに分類することができた．カテゴリー名，コード名，内容は表3のとおりである．

1）信念

「信念」のカテゴリーは，自分より弱いものを助けなさいとか自分が助けられているよ

表3　援助行動を行う理由・意義

カテゴリー	コード	内　　容
信念	宗教上の教え	自分より弱い者を助けなさい，何かあったときにはまず自分の非を考えて相手を咎めない，教えを守ることは幸せ，自分が助けられるように相手が必要なら助ける，できる者が行う
	信条	自分が健康を損なった経験から健康破綻の危険性のある行動を黙ってみていられない，母親にやってあげられなかったことをお年寄りにやってあげたい，情けは人の為ならず，誰にでも親切にすることが大切，共同生活のルールは守ることが大切，みんなと仲良くする，特定の友人はつくらずある程度距離を置く，できないことを助ける，相手に負担にならないようにする，尿・便の失敗を助けるのは当たり前，世話することは神様が授けてくれたこと
	価値観	同じ人間だから，個人としての考えがあるから，痴呆の人はただ解らなくなっているだけ，馬鹿にしてはいけない
	人生観	いずれ自分もそうなるから自分のこととしてみつめる，持ちつ持たれつ，助け合って補い合って生きている，交わりを大切にして生きていきたい，きれいなものを共有し楽しみたい
承認	自尊心	頼りにされる，相談される，甘えてくれる，認められたりすばらしいと褒められる，他の人の面倒をみることは自分自身にとって意味がある
	快の感情	相手が喜ぶ，相手が好意を素直に受け取ってくれる，気が合う，楽しい
愛情	共感	寂しい思いをしたくない，悲しいことを皆に話せば気が晴れる，ここにいる人は皆事情があって入っている
	思いやり	気持ち悪いだろう，恥ずかしいだろう，みっともないと思われると自分のことのようにせつない，弱い人を助ける
役割	依頼	寮母に注意するように頼まれている
	決まり	同室者だから，一緒にいるから仕方ない
	当番	当番だから我慢してやっている

うに相手が必要なら助けるという宗教上の教えに基づいているもの，自分の健康破綻の体験から黙ってみていられないとか，出来ないことを助けるのは当たり前というような信条や，長年の人生で培ってきた価値観，人生観など，個人の価値に基づいて行われているものであった．

（1）宗教上の教え

事例1

「バカって言われようと，何て言われようと，自分がまだ達者ならば，自分より弱いものを助けなさいっていう教えを全うしたいわけ．でしゃばりだって，面と向かって言われたことはないけれども，そう思っている人はいっぱいいると思うんです．だけども私はそれで結構なんです．お釈迦様の一番言いたいとこはそこなんだからね，自分より弱いものを助けなさいって．教えを守ることは幸せなの，うんと幸せ」

事例8

「私はもう50年もクリスチャンですからその線を逸れることはありません．だからいつでもそこへ自分をもっていきますから，あまり他のことにわずらわされることは自分ではないと思います．私が助けられてきていると同じように，もしその人が何か必要ならばしてあげます」

（2）信条・価値観・人生観

事例2

「人が喜ぶ事だったら，してあげたいと思うのよ，出来るだけのことはやってあげたいと思うの，いずれは自分たちだってああいう風に年老いていくんだからね．自分たちで出来ることは親切にしてやって，それが誰にでもね，皆同じにしてやるわけよ」

事例2

「人との交わりを大切にね，結局誰とでも話が出来るようにね，ひねくれた人もいれば気の強い人，弱い人いろいろですよね，そういう人達みんな同じような気持ちで和合したいと思うんです」

事例9

「(知的障害の人と同室になった時）排便したあと後ろの方まで手が届かないって言って，一晩に10回以上もトイレに行った時も，私はこれ与えられた自分の運命だと思ってずーっとやってきました．そんなことしているうちに不思議ですね，自分に赤ちゃんが授かったような気がして，あれ妙ですよね，汚いなんてちっとも思わなくなっちゃって，自分には子供が無かったので人生の最後にこういうことを神様が授けて下さったんだと思って一所懸命やったですよ」

2）承認

「承認」のカテゴリーは，他者から信頼されたり認められて自尊感情が充足されることに基づくもの，相手が喜んでくれて嬉しい，好意を素直に受け取ってくれるので嬉しいなど，快の感情を引き起こすものなど，他者の承認によって推進されているものであった．

（1）自尊感情

事例9

「(知恵遅れ）この子の引っ込んでしまった才能というか，知恵もね，少しでも私が引き出せてやれたらと思って“ほんとに少しづつよみがえってくるもんですね．私の友達からきた手紙をみせたり，返事を書かせて“こういうふうに書いたらどう？”“これはうまく書けたじゃん”なんて言ったらね，とてもいきいきしてきてね，本当にかわいくて，かわいくて」

事例6

「(以前同室の人）手のきかない方にマフラーを結んでやったり，上着の紐を結んだり解いてやったりしたんですが，別れてからも，食堂に行くときなど会うと，Sさん！Sさん！って言ってくれるんです．嬉しいですね．」(目を細めて柔和な顔で言う）

事例16

「私って女性だけでなく，殿方がいようと誰がいようと話がはずんじゃってね，楽しい雰囲気になっちゃうの，それだから皆おもしろくて寄ってくる」

事例1

「私が出て行くとね，“Kさん来てくれたぁー”って皆，喜ぶ」

（2）快の感情

事例6

「隣の方（食堂で）がおかずを食べないので“これ栄養があるからご飯よりこれを先におあがりなさい”って教えてやったら，喜んでね，“おいしかった”っていって喜ばれました」

事例2

「おせっかいかなと思うけど，人が喜ぶ事ならね，してあげたいと思うのよ」

3）愛情

「愛情」のカテゴリーは，皆，事情があって入っている，寂しい思いをしたくないなど同じ仲間としての共感を主体とする感情や気持ち悪いだろう，恥ずかしいだろうと相手の立場に対する思いやりなど，人間としての基本的な愛情に基づいて行われているものであった．

（1）共感

事例2

「やっぱり皆ね事情があって入っている人が多いでね，お互いにね自分の辛かったこと，やってきたこと，やられてきたことを話し合うのよね．そうすると気持ちが晴れるの」

（2）思いやり

事例16

「私はもうなにしろ年寄りを見るとうんと大事にして上げたいっていう気持ちになるわけ」

事例9

「それによって生きがいを感じるとか，自分はこれやって，こう評価を得たいとか，そんな気持ち全然なく，ただ，ただ困っている人を見るのはしのびないってだけ，いたって単純な気持ちです」

4）役割

「役割」のカテゴリーは，寮母に注意するように頼まれているからという寮母からの依頼や，同室者が面倒見ることになっている決まりだから，当番だからなどのような共同生活における役割上の責任に基づいて行われているものであった．

（1）依頼

事例1

「寮母が“その人が甘いものやら，しょっぱいものやらそういうもの食べるときは世話焼いてくれ”って言うもんで，世話焼くのは教えではいけないことだけど（その人の）ためだと思って，毎日のように世話焼いていた」

（2）決まり

事例11

「各部屋いろいろな人が入っている．丈夫な人とそうじゃない人と大体組んでいるが，一緒にいる人は面倒みることになっている」

事例7

「同じお部屋にいるのに何も見てあげないなんて言われると困るから」

（3）当番

事例3

「腰のヘルニアで痛いけど，当番だけは出なきゃ困るから，ご飯頂いているからそれだけは我慢してやっている，もう普通の人より動作も鈍いしね」

考　察

1．入所者間の援助行動の特徴

入所者間の援助行動は，「世話」「自立の促進」「教示」「調整」「保護」「共感」「尊重」の7つのカテゴリーに分類された．これらの行動は比較的広範囲にわたる援助行動であり，しかも人間が生きていく上で必要不可欠な社会的行動といえる．そこで，本研究で得られた援助行動の類型を，看護学や社会心理学分野における類型と比較し，援助行動の妥当性について検討した．

看護学分野における援助行動は，看護の中心概念であるにも関わらず，概念の明確な定義およびその類型についてはコンセンサスを得るまでには至っていない[7]．しかし，近年ケアリングという概念によって研究が進められてきており，人間の存在，成長，発達，生存に不可欠な現象として明らかにされつつある[8]．レニンガーは民族的方法を用いてヒューマン・ケアリングの概念的モデルを作成し，その中で主要なケアリングの構成要素を明らかにしている（表4）[9]．この分類をみると，本研究で得られた援助行動はかなり類似していることが考えられる．

また，ハッチソンの高齢ナーシングホーム

における入居者間のケアリング行動と比較してみても，カテゴリー名は異なっているが，内容において類似点を見いだす事が可能である（表5）[10]．

レニンガーが述べているように，「ケアリングは，専門家・非専門家を問わず，人間にとって必要な普遍的な現象であり，その表現，過程，パターンは文化によって異なる」ということを加味すると[11]，本研究で得られた7つのカテゴリーは，養護老人ホームにおける入所者間の援助行動としてある程度支持されうるものと考える．

それでは，援助行動を人間の社会的行動としてとらえている社会心理学分野における類型との比較ではどうであろうか．社会心理学における援助行動研究のうち，特に援助行動の類型化に関してみてみるといくつかのモデルが検討されているものの，看護学分野と同様に，コンセンサスが得られていない[12]．そこで，いくつかの類型と比較検討してみた．

広田は，援助行動を物質的援助行動（物を貸したりあげるという分与や寄付行動）と労力的援助行動（非物質的な行動で，他者に力を貸したり慰める行動）の2つの類型で検討している[13]．この類型でみてみると本研究で得られた援助行動の大部分は（栽培した花をあげる，花瓶を貸す以外の行動），労力的援助行動に分類される．本研究の結果は施設内という特殊な環境下での援助行動であり，規則などで分与や寄付行動が禁止されているので，物質的援助行動は生起しにくい状況にあったと思われる．この点に関しては，地域に生活する高齢者の援助行動と大きな差があることが推測される．

また，高木は，援助行動の類型を基本的援

表4　主要なケアリングの構成要素の分類（レニンガー）

慰め	養育
思いやり	そばにいる
気づかう	保護的行動
対処行動	回復に向かわせる
共感	分かち合う
力を与える	刺激を与える
手助けをする	ストレスの緩和
関心	手を差しのべる
かかわる	支持
健康相談的行動	監視
健康指導的行動	優しさ
健康維持的行動	触れる
援助行動	信頼
愛情	その他

表5　ナーシングホームの入居者間のケアリング行動のタイプ（ハッチソン）

カテゴリー	サブカテゴリー	内　容
保護		心配していることを表現する，適応，身体的援助，見守ること
サポート	コーピングの促進	平穏，慰め，快活，励まし
	正常化の強化	正常な人として扱う，素敵な時間を共にする
	日常生活の促進	日常生活を可能にする，一般的援助，移送，日常生活の維持，養育
確認	人間性の認知	仲間を訪問，時間をとる，認める，タッチ
	同情	同情の表現
	世話	贈り物，サービスをする（食事の準備，洗濯物をたたむこと，掃除，使い走り）
超越	祈り	他の人々のために祈る

助状況とからめて特徴づけ，7つに分類し説明している（表6）[14]．これより，本研究で得られた援助行動のほとんどは，「努力行動」「道徳的行動」「弱者に対する行動」「親切行動」に分類され，自分の労力と素朴な感情に基づいた援助行動であることが考えられた．

以上から，本研究で得られた援助行動は，看護学や社会心理学領域におけるこれまでの援助行動の主な類型と比較して，文化や施設内という環境下および高齢者という対象の特殊性が反映されていると考えられるものの，援助行動としては妥当性があることが推察された．

2．入所者間の援助行動および援助行動を行う理由・意義との関連

本研究で得られた援助行動および援助行動を行う理由・意義について，図1に示すようにカテゴリーモデル化してみた．図1にあるように，施設内における入所者間の援助行動は，「信念」「承認」「愛情」「役割」が，原動力になっていることが明らかになった．

これらはマズローのニーズ理論の愛と帰属，承認，自己実現という高いレベルのニーズと対応しているということができる[15]．すなわち，「こうありたい」という個人の信念や，他者からの承認による自尊感情の充足と快い感情，人間としての愛情などから「してやりたい」という欲求が生じ，それらに基づいて援助行動をしていると考えられる．個人の感情と欲求に基づいて援助行動ができるということはそれだけ生活の質が充実しているということがいえよう．

以上からこれまで多くの研究で報告されてきたように施設に入所している高齢者を，ネガティブな側面のみを見て矮小化するのでは

表6　社会心理学分野における援助行動の類型（高木）

類型	内　　容
寄付・奉仕行動	他者のためにお金，血液，労力，時間を寄付・提供する行動
分与行動	他者に自分の貴重なものを分けたり，貸与する行動
緊急時行動	緊急時，困っている他者のために直接的・間接的に介入する行動
努力行動	他者に力を貸したり慰めるという身体的・心理的な労力を必要とする事態で援助する行動
道徳的行動	迷い子の世話や遺失物を届ける行動
弱者に対する行動	身体の不自由な他者（高齢者や幼小児）を世話する行動
親切行動	ちょっとした親切心で行う行動

注）類型および内容について表現の解かりにくいところは一部修正・加筆した

なく，英知を有する存在として個人の考えや思っていることを大切にしながらサポートしていくことの必要性が示唆された．自立を促すことを強調するあまり，入所者間の援助行動を制限することは，高齢者のもつ人間らしい感情や欲求を封じ込め，その人らしい人生の集大成を困難にすることにも通じる．

老人施設でのケアでは，援助行動を通じて他者の役に立つことが，入所者自身の生活の質の向上につながっていることに留意し，施設の入所者をケアの受け手としてだけとらえるのではなく，ケアの送り手すなわち他者のために貢献しうる存在としてとらえていくことが必要である．このような考え方を地域住民の間に一般化していくことが，社会の中に高齢者の存在価値を認めさせていくことに通じると考える．

3．研究の限界と今後の課題

本研究の限界は，研究者の面接・分析能力によりデータの収集・分析に偏りがある可能性を有していること，1施設における結果であるため地域や施設および調査対象者の特殊性が反映されているかもしれないという点があげられる．今後の課題としては，施設数お

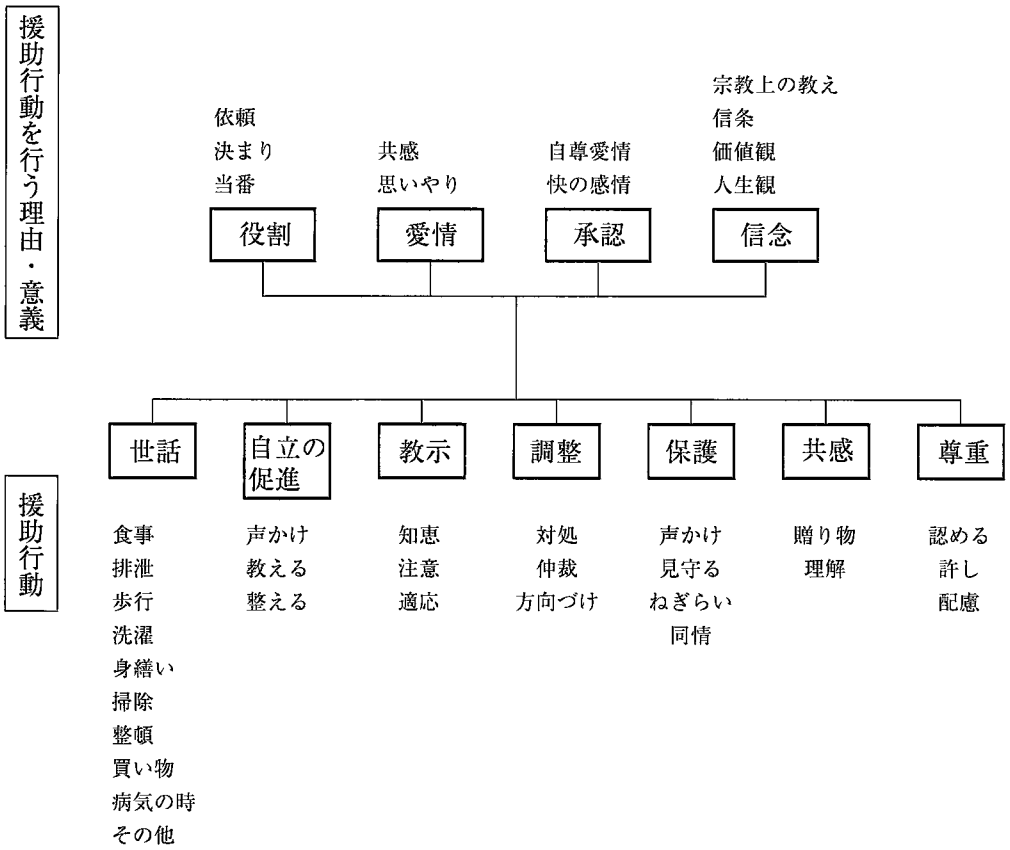

図1　養護老人ホームの入所者間の援助行動と援助行動を行う理由・意義のカテゴリーモデル

よび調査対象者数を増やし，カテゴリーモデルの精選を図り一般化できるようにすること，対象者を地域に住む高齢者に拡大し今回の研究で分類されたカテゴリーや内容と比較検討する必要があること，援助行動が多い高齢者と少ない高齢者では生活の質に具体的にどのような相違があるのかを明確にすること，援助行動の規定要因を明確にすることなどに留意し，研究を重ねていく予定である．

まとめ

養護老人ホームにおいて，入所者間でどのような援助行動が行われているか，またその理由・意義は何かを明らかにする目的で，面接調査を行い，内容分析をおこなった結果，以下のことが明らかになった．

1）援助行動は，世話，自立の促進，教示，調整，保護，共感，尊重の7つのカテゴリーに分類された．

2）援助行動を行う理由・意義は信念，承認，愛情，役割の4つのカテゴリーに分類された．

3）施設内における高齢者間の援助行動はマズローのニーズ理論の，高いレベルのニーズが原動力となっていた．

以上より，援助行動を通じて他者の役に立つことが，高齢者の自尊感情や存在意識を高め，入所者自身の生活の質の維持や向上につながることに留意し，施設に入所している高齢者をケアの受け手としてだけでなく，他者のために貢献しうる存在としてとらえ直していくことの必要性が示唆された．

謝辞

本調査にご協力頂いたS老人ホームの入所者の皆様，園長，生活指導員の皆様に深謝致します．

引用・参考文献

1）厚生統計協会編集：国民衛生の動向．43（9）：88-99，厚生統計協会，1996.

2）鎌田ケイ子他：新版看護学全書，老人看護学．10-14，メジカルフレンド社，1992.

3）Kahana, E. & Coe, R.: Self and Staff conceptions of institutionalized aged. Gerontologist, 9：264-267, 1969.

4）Noelker, L. S. & Poulshock, S. W.: Intimacy: Factors affecting its development among members of a home for the aged. International Journal of Aging and Development, 19：177-190, 1984.

5）Hutchison, C. P. & Bahr, R. T., 鈴木千衣，筒井真優美訳：高齢ナーシングホーム入居者間におけるケアリング行動のタイプと意味．看護研究，26（1）：25-31，1993.

6）筒井真優美：：ケア／ケアリングの概念．看護研究，26（1）：2-13，1993.

7）前掲6）2-13.

8）Chao, Yu-Mei (Yu)：ケアリングの諸概念．日本看護科学会誌，9（2）：25-31，1993.

9）Tomey, A. H.，都留伸子監訳：看護理論家とその業績．153，医学書院，1991.

10）前掲5）27.

11）前掲9）154.

12）中村陽吉，高木　修編：他者を助ける行動の心理学，1-43，84-145，光生館，1987.

13）広田信一：教室における自発的愛他行動の観察的研究，教育心理学研究，43（2）：101-197，1995.

14）前掲12）30-33.

15）Maslow, A. H. 小口忠彦監訳：人間性の心理学．第9版，89-117，産業能率短期大学出版部，1977.

受付日：1996年10月3日
受理日：1996年11月27日